

第二回ジュニア俳句大会

大会賞

ひまわりが太陽向いて充電中

第四小学校 六年 鈴木 萌香

はんぶんはママにあげたい夏休み

第六小学校 二年 島田 祥広

扇風機早くこつちを向きなさい

中原小学校 五年 小林 菜月

優秀賞

木にのぼる夏がゆれてる葉がゆれる

第四小学校 四年 東海 拓巳

セミが鳴き宿題終わらずぼくも泣く

井口小学校 五年 小佐々 裕太

二学期もぼくの心は夏休み

井口小学校 五年 角 風雲児

夏色の金魚がひれふり泳いでる

井口小学校 五年 池田 桃果

夏なのに海に行けない子どもたち

中原小学校 五年 森山 京祐

ホタルはね水べをてらすおほしさま

大沢台小学校 二年 小野 元

原っぱでやっと見つけたクローバー

第五小学校 四年 中澤 たつし

佳作

赤あまーいピンクすっぱいちびトマト

下連雀保育園（六歳） 岩垂 蒼泉

ひまわりのかおからたねがわき出した

羽沢小学校 二年 坂井 俊斗

おどろいたセミのぬけがら目の高さ

井口小学校 五年 川崎 和佳子

くものこえふあふあといっている

あかね保育園（年中組） 中村 文乃

ひまわりがゆれるところに風がふく

第四小学校 二年 今井 春

ありんこがゆうだちやんでいっばいだ

第四小学校 一年 神原 慎之介

かがいっばいいいちりんしゃにもついてくる

第六小学校 一年 河東 花音

かきごおりきれいな音がするんだよ

中原小学校 二年 島田 茉歩

あついなつ水とうすぐにからっぽだ

中原小学校 二年 飯嶋 すみれ

ふきのとう冬の寒さをおしのける

井口小学校 五年 森井 浩太

五月雨にぬれてかがやくかえでの葉

第二小学校 五年 小野 綾芽

節電でみんなの両手うちわあり

第二小学校 五年 吉田 理香

丸池の稲と私はのびざかり

中原小学校 五年 加藤 あい

かぶとむし茶色いはねで飛んでゆく

中原小学校 五年 川端 寛章

じしんのあと小さな花も生きている

中原小学校 五年 伊藤 璃奈

夏休み被災地のこと考える

中原小学校 五年 大橋 龍也

魚跳ねうろこが光る夏の川

中原小学校 五年 平川 桐伍

この夏はいつもとちがう夏休み

中原小学校 五年 丸山 竜弘

猛暑日が優しく変わるゴウヤの葉

中原小学校 六年 山田 祐樹

バタあしで十五メートルみずキラキラ

北野小学校 一年 吉田 真由南

数かぞえ耳をふさぐよいなびかり

北野小学校 五年 進藤 吾朗

たなばた様みんなの願いを拾ってる

高山小学校 五年 橘 汐芽

カブトムシでんきがないよ土のなか

高山小学校 三年 渡部 陽斗

風が出て秋のけはいね葉が黄色

南浦小学校 三年 金子 菜々

秋風やはっぱを落とし消えてゆく

南浦小学校 三年 内藤 秀一郎

セミが鳴くさいごの力ふりしぼり

第五小学校 四年 鈴木 俊太

とびこみ台青い空へとふみきった

第五小学校 四年 大熊 慶太

まんげつは夏のよぞらにはんこポン

第五小学校 二年 伊藤 まゆ

ベランダにうなる羽音の黄金虫

第七小学校 三年 杉村 祐斗

葉ざくらが風にふかれてかげ落とす

第一小学校 四年 横井 彰人

大沢のほたるまたたくよしの中

第一小学校 四年 中野渡 理乃

黒い雲こつちへ近づくかみなりだ

第六小学校 四年 赤木 日向実

月のうた町にひびくとみんなねる

第六小学校 四年 木島 梨歩

セミの声母どなり声大合唱

第六小学校 四年 辻 剛瑠

十五夜の月のうさぎをさがしてる

第六小学校 四年 片野 結

第二回ジュニア俳句大会を終えて

三鷹市内の全小学生、幼稚園児、保育園児に呼びかけておこなった第二回ジュニア俳句大会は、九百十八人の参加をいただき、三鷹市市民文化祭に花をそえることができました。出句された小学生、園児の皆さんはいうまでもありませんが、ご協力いただいた先生方、保護者の方々、地域子どもクラブの方々、学童保育所の先生方に心よりお礼申しあげます。

ことしのジュニア俳句では、東日本大震災と原発事故を受けとめた作品がたくさんあったこと、全体に作品の質が上がったことが、とくに印象にのこりました。

来年もまた、大勢の皆さんから元気の出る、心へのこる作品が数多く寄せられることを願っています。

(三鷹俳句会会長 田山光起)